

KEIZAIREN

情報②

● 2023.2 ● NO.1301

安全・安心・新鮮でおいしい静岡県産の農畜産物をお届けします。

JA葬祭事業について ～利用者ニーズに応え満足度向上への取組紹介～

Main topics

JA葬祭事業について

～利用者ニーズに応え満足度向上への取組紹介～…01

topics&news

秋冬青果物の取引拡大を

東京都中央卸売市場2会場でトップセールスを開催…03

静岡県産農産物をPR

中京地区で静岡県フェアを開催 ……03

年末年始にミルク消費を

食堂で牛乳・乳製品を使ったメニューを提供 ……03

業静岡いちごをPR

静岡いちごを県知事に贈呈 ……04

静岡いちごの品質と栽培技術の向上をめざして

第33回静岡県いちご果実品評会 ……04

県産野菜の消費拡大に向けた取組

「ペイザンヌサラダ」を副知事に提案 ……05

系統経済事業の発展を

令和4年度 系統経営者研究会 ……05

県下JAグループの連携を図る

令和4年度第2回静岡県JA営農経済部長会を開催 ……05

農産物の輸出促進に向けたセミナー

「清水港農産物輸出セミナー」で本会の取組紹介 ……06

令和5年度の活動計画などを協議

静岡県農協葬祭事業連絡協議会 ……06

県産米をPR

静岡大学学生に県産米を配布 ……06

日本一のお米が決定

第19回お米日本一コンテストinしずおか開催結果 ……06

最新研究紹介

育苗労力とイチゴ炭疽病発生リスクを

低減する「きらび香」の本ぽ増殖栽培 ……07

お知らせ

建設部からのお知らせ ……09

あぐりんく静岡からのお知らせ ……09

テレビ番組のご紹介 ……10

JAタウンしずおか「手しお屋」おすすめ商品 ……10



▲東京でトップセールスを開催



▲静岡いちごを県知事に贈呈



JA葬祭事業について

利用者ニーズに応え

満足度向上への取組紹介

I はじめに

本会は「JA静岡経済連3か年計画」の基本目標として「経営環境に対応した事業・経営の転換」を掲げ、収支均衡に向けた経済事業改革に取り組んでいます。今月のメイントピックスでは、本会くらし支援部生活葬祭課が取り組む「JAの総合力を発揮し組合員・利用者のニーズに応えるJA葬祭事業」について、最近の葬祭動向を交えて紹介します。

II 葬祭動向について

1. 葬祭業界の情勢

令和2年10月時点で全国の65歳以上の高齢者人口は約3,602万人で総人口の28・6%となりました。全国の死亡者数は、令和3年は143・9万人で、10年前の平成23年の125・3万人に比べ約15%増加し、高齢化の進展を背景に増加しています。（総務省・人口推計「令和2年国勢調査結果」、厚生労働省・令和3年人口動態統計より）

2. コロナ禍の葬儀事情

少子高齢化を背景に小規模化して

いた葬儀は、令和2年1月頃からの新型コロナウイルス感染症の流行拡大により発出された「緊急事態宣言」などの影響も加わり、規模縮小がさらに進みました。令和2年の葬儀施行件数は前年並みで推移しましたが、葬祭業界全体の売上は約15%減少しました（経済産業省・特定サービス産業動態統計調査より）。コロナ禍で進んだ葬儀の小規模傾向は、アフターコロナでも続くことが予想されています。

III JA葬祭の取組

本県JAグループでは、県下JAやJA子会社が所有する50ホールと提携する21ホールの計71ホールで葬儀を施行しています。令和3年度の施行件数は約9千件で、全国のJAの中で本県JAグループは施行件数全国第1位（平成22年度から12年連続）となっています（図1）。また、施行シエ

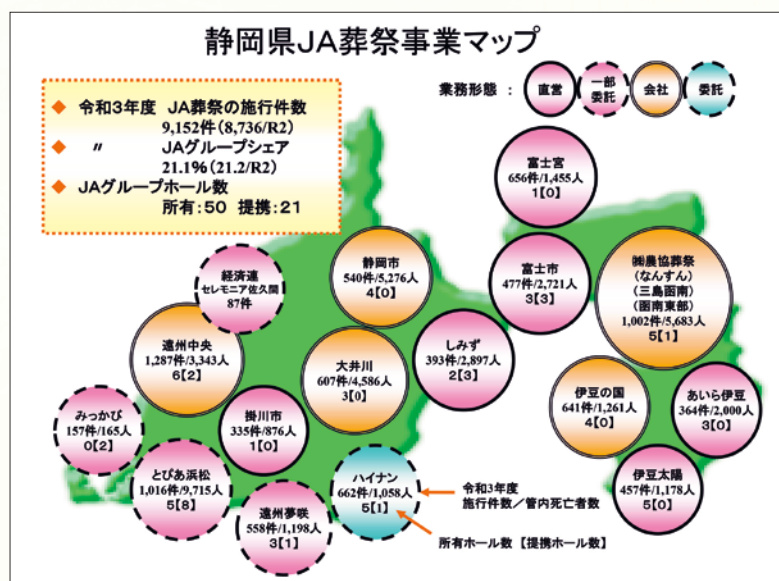


図1. 静岡県JA葬祭事業マップ

ア（各都道府県での葬儀件数に対するJA葬祭の割合は21・1%となっており、全国平均の10・5%に比べ高いシェアとなっています（令和3年度、JA全農とりまとめ）。

1. 静岡県農協葬祭事業連絡協議会
本県JAグループでは、本会くらし支援部生活葬祭課を事務局とした「静岡県農協葬祭事業連絡協議会」を組織し、葬祭事業を行っているJAとJA子会社が会員となっています。1年に3回協議会を開催し、会員同士の情報共有を通じて県内農協葬祭事業の活性化を図っています。また、外部講師を招いての研修会の開催や優良な取組・運営を行う葬祭ホールの現地視察研修などを行い、葬祭業界の情勢と葬祭ニーズの把握、利用者サービスの向上に努めています。
2. 本会の施設について
本会では、葬儀にかかる返礼用ギフト商品を供給するため、島田市と袋井市の県内2か所に葬祭センターを設置し、実用的な商品を取り入れたオリジナルギフト商品の開発・供

会員JA・JA子会社	
JAふじ伊豆	(株)ジェイエイ・メモリアルセンター
(株)農協葬祭	JAしみず
(株)JA静岡市 やすらぎセンター	(株)ジェイエイ大井川 葬祭サービス
JAハイナン	JA掛川市
JA遠州夢咲	(株)ジェイエイ遠中 サービス
JAとびあ浜松	JAみっかび
JA葬祭事業 5つの行動指針	
1. 組合員・利用者の期待に応える民主的な運営を行います。	
2. 総合事業として、充実したサービスと良質な商品の提供を行います。	
3. 地域社会へ協力し、貢献します。	
4. 教育・学習活動を積極的に行います。	
5. JAグループの一員として、協同活動を積極的に行います。	



写真1. バナー広告（左）とホームページ（右）

給を行っています。また、浜松市天竜区にセレモニア佐久間を設置しています。

3. 顧客満足度向上に向けた協議会での取組

① JA葬祭のブランディング

「JA葬祭」ブランドの構築と認知度向上のため、県下統一広報活動に取り組んでいます。インターネットを活用した広報活動に力を入れており、大手検索サイトで本県JA葬祭のバナー広告を掲載しています。

小規模葬への対応強化を目的に「JAの家族葬」を統一的なプラン名としてブランディングを行っています。ウェブ上でのバナー広告と「JAの家族葬」を説明するホームページを展開しています（写真1）。



写真2. 追悼コンサートの様子

② クリニクスコンサート

JA葬祭ホールの品質維持と協議会会員同士の美化意識向上を目的に



写真3. ペット葬について

クリニクス（美化）コンテストを毎年実施しています。チェックシートをもとに会員相互でホールの清掃状況などを確認するほか、顧客満足度向上に対する優良な取組やサービスについて県下JA葬祭に広く展開できるように紹介しています。

③ 追悼コンサート

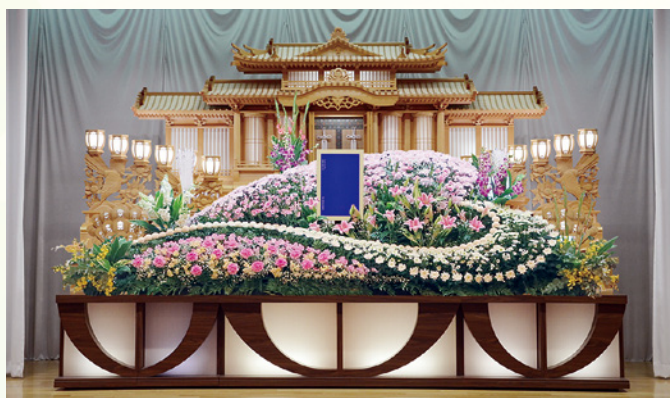
JA葬祭では、ご遺族を対象に追悼コンサートを実施しています。追悼コンサートでは、ご遺族へ事前アンケートを行い、プロの音楽家によるリクエスト曲の演奏とともに故人のエピソードや思い出を紹介し、故人をしのびます（写真2）。

④ ペット葬

ペットは家族の一員で最期も家族同様に見送りたいという思いから、ペット葬の需要が増加しています。県下JA葬祭においてもペット葬の取組を行っています（写真3）。

⑤ SDGsへの対応

持続可能な開発目標（SDGs）



▲祭壇の一例

問い合わせ先
● JA静岡経済連 暮らし支援部
生活葬祭課
電話：0544-28419898

今回のメイントピックスでは、JA葬祭の取組内容についてご紹介しました。JA葬祭では、利用者のニーズに応え、満足度向上に向けたさまざまな提案を行い、JA葬祭のフアンづくりに取り組んでまいります。

IV おわりに

の達成のための取組、葬儀備品・消耗品の導入について研究しています。

秋冬青果物の取引拡大を

東京都中央卸売市場2会場でトップセールスを開催

1月20日、みかん園芸部は、東京都中央卸売市場（大田市場と豊洲市場）でトップセールスを行い、県内JAの会長・組合長をはじめとした役員ら約30人が参加し、静岡県産農産物売り込みました。コロナ禍で昨年、一昨年はビデオメッセージでのトップセールス実施でしたが、今回は3年ぶりの実開催で、初めて大田市場と豊洲市場の2か所同時開催となりました。

大田市場内では午前7時頃からセレモニーを行い、市場関係者や卸業者が集まり、本会の松永大吾経営管理委員会会長は「生産・出荷・流通コスト上がっている中、JAグループ一体となり市場の期待に応える品質と数量を届けたい。出荷最盛期を迎える静岡県産農産物の販売をよろしくお願いします」と呼び掛けました。

会場では、青島ミカン、静岡いちご、セルリー、レタス、トマト、わさび、新たまねぎなどを展示したほか、「静岡いちご娘」により県産農産物のサンプルを来場者に配布し本県産秋冬農産物をアピールしました。

大田市場内では午前7時頃からセレモニーを行い、市場関係者や卸業者が集まり、本会の松永大吾経営管理委員会会長は「生産・出荷・流通コスト上がっている中、JAグループ一体となり市場の期待に応える品質と数量を届けたい。出荷最盛期を迎える静岡県産農産物の販売をよろしくお願いします」と呼び掛けました。



▲大田市場でのトップセールス



▲豊洲市場でのトップセールス

静岡県産農産物をPR 中京地区で静岡県フェアを開催

みかん園芸部名古屋事務所は、中京地区を中心にスーパーを運営する(株)オークワと(株)ヤマナカで「静岡県フェア」を開催しました。フェアは、愛知・岐阜・静岡のオークワ13店舗で12月16日～18日の3日間、名古屋市のヤマナカ5店舗で12月10日と11日の2日間それぞれ実施しました。フェアでは、旬の県産野菜・果実としてセルリー、白ネギ、トマト、ミカンなどを販売しました。

ヤマナカでは、マネキンによる試食PR活動を実施した他「朝採りセルリー」を販売しました。同社バイヤーは「形式的な売り場ではなく、動きのある売り場づくりが必要。静岡県産の様々な品目をラインナップして目立たせることや、『朝採り』をうたいPRすることで消費者の目を引く。こういった工夫が必要」と話しました。



▲「静岡県フェア」売り場（写真左：オークワ、右：ヤマナカ）

年末年始にミルク消費を 食堂で牛乳・乳製品を 使ったメニューを提供

12月12日から21日の間、本会、静岡県、静岡市の3者は「年末年始はおうちでミルク」をスローガンに、牛乳などの消費促進に取り組みました。年末年始は販売店の休業や学校給食の休止などにより牛乳や乳製品の需要が減少することに加え飼料費高騰による牛乳などの値上げにより消費の低迷が予想されたことから、本取組をきっかけに牛乳などの消費拡大を促進することが目的。

県農業会館の食堂では、19日から牛乳を使った特別メニューを期間限定で提供し来店した職員が味わいました。併せて200ミリリットルのパック牛乳を来店者に配り、年末年始の牛乳消費をPRしました。



▲牛乳の配布（写真左）と提供されたメニュー「エビとチーズのドリア」（農業会館食堂にて）

静岡いちごをPR

静岡いちごを県知事らに贈呈

12月13日、静岡県いちご協議会(事務局・野菜花卉課)は、川勝平太静岡県知事と出野勉副知事、森貴志副知事に静岡いちごの主力品種「紅ほっぺ」と「きらぴ香」を贈呈しました。静岡市葵区の飯田寿夫会長らが出席し、静岡いちごを川勝知事に手渡しました。

飯田会長らは「今シーズンは定植の遅れにより出荷が遅れたが生育は順調。県内や京浜地区など国内での販売に加えシンガポールなど海外での引き合いも強く、量的には増え

ている」と話し、川勝知事は「清水港などを活用し、イチゴを始めとした県産農産物の国内外への販路拡大PRをしていきたい」と応えた。また、静岡いちごのPR活動を行う「静岡いちご娘」のメンバー3人も贈呈式に出席し「静岡いちごの魅力を県内外でアピールしたい」と意気込みを話した。



▲川勝知事に静岡いちごを手渡す静岡いちご娘の松下さん(写真左)と太島さん(写真右)



▲出野副知事

▼森副知事



▲金賞1席高田祐樹さん(JAふじ伊豆)の紅ほっぺ

審査員は「今年は花芽分化の遅れにより品評会への出品が心配されたが、全体的に品質が高いものがそろった。食味も良い」と評価しました。

品評会には10JAから「紅ほっぺ」108点、「きらぴ香」33点が出品されました。県農林技術研究所の岩崎敏之所長が審査長を務め、県や農林技術研究所の職員、消費者代表ら15人が、形状や色沢、玉ぞろいなどの外観と食味などの内容を審査しました。出品物の平均糖度は、「紅ほっぺ」が12・6度、「きらぴ香」が12・8度でした。

12月15日、静岡県野菜振興協会(事務局・野菜花卉課)は、県農業会館で第33回静岡県いちご果実品評会を開催しました。最高位の農水大臣賞・JA静岡中央会会長賞・県京浜地区果実流通協議会会長賞は、JAふじ伊豆の高田祐樹さんの「紅ほっぺ」が受賞しました。

第33回静岡県いちご果実品評会

静岡いちごの品質と栽培技術の向上をめざして

他の特別賞受賞者は次の通り。

賞		JA名	氏名	品種	特別賞
金賞	1席	JAふじ伊豆 (伊豆の国地区)	高田 祐樹	紅ほっぺ	農林水産大臣賞
					静岡県農業協同組合中央会々長賞
					静岡県京浜地区果実流通協議会々長賞
	2席	JAふじ伊豆 (伊豆の国地区)	永倉 玄太	きらび香	関東農政局長賞
					静岡県経済農業協同組合連合会理事長賞
	3席	JAふじ伊豆 (伊豆の国地区)	神田 豊通	紅ほっぺ	静岡県知事賞
					静岡県信用農業協同組合連合会理事長賞
	4席	JA遠州夢咲	栗本 めぐみ	紅ほっぺ	静岡県農林水産業振興会会長賞
					静岡県厚生農業協同組合連合会理事長賞
	5席	JA遠州夢咲	渡邊 裕介	きらび香	静岡県経済産業部長賞
全国共済農業協同組合連合会静岡県本部長賞					



県産野菜の消費拡大に向けた取組 「ペイザンヌサラダ」を副知事に提案

12月14日、本会（野菜花卉課）とサラダ調味料メーカーのキユーピー（株）は、静岡市葵区の県庁を訪ね、森貴志静岡岡副知事に県産野菜を使った「ペイザンヌサラダ」を提案し試食会を開催しました。本会の石川和弘常務理事と同社名古屋支店の山田秀春支店長らが、副知事に今回の取組や県産野菜について紹介しました。

「ペイザンヌサラダ」は、フランスで親しまれる地場野菜とタマゴを盛り合わせたサラダ。サラダにタマゴを加えることでバランスの取れた栄養摂取が期待されます。

石川常務は「今回のコラボをきっかけに、出荷最盛期を迎えている本県産野菜の消費拡大に取り組みたい」、山田支店長は「年間を通して旬の県産野菜をPRし、おいしい野菜で



▲「ペイザンヌサラダ」を試食する森副知事

健康づくりにつながりたい」と話し、森副知事は「本県は食材の種類が多く、地場で新鮮な野菜を提供できる環境にある。今回のコラボで県民の野菜摂取が増え健康につながれば」と応えました。

県産野菜を使った「ペイザンヌサラダ」は、県庁の食堂で、期間・数量限定で販売されました。



系統経済事業の発展を 令和4年度 系統経営者研究会

12月9日、本会（事務局・企画管理課）とJA静岡中央会、静岡県信連、全共連静岡県本部は4連合会合同で、「令和4年度系統経営者研究会」を開き、県下JA組合長ら約40人が出席しました。本県連合会合同による協議を通じ、県域の一体性と協調性を高めることが目的で、各連から次期2か年計画（案）などを報告しました。本会からは、松永大吾経営管理委員会会長はじめに挨拶をし、加藤敦啓代表理事理事長が本会2か年計画（案）について、寺田国彦代表理事専務が情勢報告しました。



県下JAグループの連携を図る 令和4年度第2回静岡県JA 営農経済部長会を開催

12月6日、JA支援課は静岡市内で、令和4年度第2回静岡県JA営農経済部長会を開き、県内JAの営農経済部門担当部長ら35人が参加しました。

開催に先立ち、同部長会の会長を務めるJAしみず良知和久営農経済部長は「新型コロナウイルス感染症の再拡大、燃油や肥料価格高騰、台風15号被害の復旧作業など協同の力を改めて考える機会となった。この部長会での各JAとの情報交換を通じ、系統事業の発展につなげたい」と挨拶しました。

報告事項として、本会加藤敦啓代表理事理事長より次期2か年計画案、寺田国彦代表理事専務より本会事業概況について報告しました。研究事項として、本会生産資材部より農業機械事業の持続化に向けての検討と肥料価格高騰対策として堆肥の利用について本会の取組を説明しました。



▲挨拶をするJAしみず良知部長

農産物の輸出促進に向けたセミナー 「清水港農産物輸出セミナー」 で本会の取組紹介

12月20日、流通開発課は山梨県甲府市で開催された「清水港農産物輸出セミナー」で本会の農産物輸出の取組について紹介しました。セミナーは会場での受講に加えオンラインでも行われ、生産者や輸出事業者、行政などから178人が参加しました。本セミナーは、清水港の農産物輸出拠点化に向けて、農林水産省関東農政局と中部地方整備局清水港湾事務所が共同で開催したもので山梨県では初の開催となりました。令和3年に本県と山梨県を結ぶ中部横断自動車道が全線開通し、両県のアクセスが大幅に向上したことに加え静岡市中央卸売市場でドックシエーターが整備され、広域的な農産物輸出拠点として清水港活用が進められています。セミナーでは、流通開発課の箕浦秀紀課長補佐より、本会の輸出の取組として、荒茶やイチゴ、メロン、柑橘類などの主品目や、香港などの主要輸出国・地域の紹介をしました。また、現状の課題として、生産面では国際認証制度や各国の規制に対する対応、販売面では輸出先における国内産地間の価格競争などについて報告しました。



令和5年度の活動計画などを協議 静岡県農協葬祭事業 連絡協議会

12月20日、静岡県農協葬祭事業連絡協議会（事務局・生活葬祭課）は、県農業会館で「令和4年度静岡県農協葬祭事業連絡協議会」を開き、会員JAとJA子会社の担当者ら23人が参加しました。

協議会では、協議・報告事項として、令和5年度の協議会活動計画を協議した他、JA葬祭の課題やウェブマーケティングについて事務局より報告しました。また、SDGsに対応した商品の紹介を行いました。

今年度実施したクリンリネスコンテストの審査結果を発表し、JA伊豆太陽メモリアル吉佐美・松崎、ハートフルメモリー・葦山会館、JA遠州夢咲やすらぎ菊川ホール（雅）、JAとぴあ浜松やすらぎホール浜北（北館）の計5ホールが満点を獲得し優秀賞を受賞しました。



県産米をPR 静岡大学学生に県産米を配布

12月23日、食糧課は、県産米についての認知度をより深めてもらうため、県産「きぬむすめ」を静岡大学の学生に配布しました。同大学生協が運営する静岡市駿河区の静岡キャンパスと浜松市中区の浜松キャンパスの食堂計4か所合わせて2,000袋（1袋1合入り）とちらしを配りました。本会では、令和4年9月から同大学食堂に県産米を供給しています。

静岡キャンパス学生協食堂の家主啓伍店長は「静岡県産のコメを提供するようになってから学生から以前よりコメが美味しくなったという声が聞かれた。全国から集まる学生らに地元静岡県産の農産物を味わってほしい」と話しました。



日本一のお米が決定 第19回お米日本一コンテスト inしずおか開催結果

12月11日、お米日本一コンテスト実行委員会（事務局…県農芸振興課）は「第19回お米日本一コンテストinしずおか」の最終審査を静岡市駿河区のグランシップで開催し、有限会社源丸屋河村秀樹さん（岐阜県）の「コシヒカリ」が特別最高金賞、小山町の小見山益彦さんの「歓喜の風」が静岡県知事賞を受賞しました。同コンテストはお米、ごはんを中心とした和食文化の推進と良食味米の産地育成、消費拡大を目的に平成16年から毎年開催されています。また、本会食糧課の古川信好コンサルタントと生産振興開発課の鈴木秀規コンサルタントが審査員を務めました。上位入賞者は次のとおり（敬称略）

特別最高金賞・実行委員会会長賞

有限会社 源丸屋 河村秀樹（岐阜県・コシヒカリ）

静岡県知事賞

小見山 益彦（静岡県・歓喜の風）

最高金賞

小見山 益彦（静岡県・歓喜の風）
御殿場・小山エコ栽培米出荷組合
遠藤 博雄（静岡県・コシヒカリ）
米の匠みのりガーデン 五十嵐成生（山形県・コシヒカリ）
株式会社 米風土鳥取 長尾達也（鳥取県・ゆうたい21）
茅野 純和（長野県・コシヒカリ）
（順不同）

農林技術
研究所
だより育苗労力とイチゴ炭疽病発生リスクを
低減する「きらび香」の本ぽ増殖栽培

私が紹介します！

静岡県農林技術研究所
野菜生産技術科 科長

河田 智明



一 はじめに

イチゴの育苗では、苗の密集、上からのかん水などの要因により炭疽病の発生リスクが高まり、近年の高温と相まり炭疽病による苗不足が問題となっています。このリスクと育苗労力を軽減する技術として収穫株を利用して本ぽで増殖する育苗方法（2008あたらしい農業技術）があります。育苗ほが不要になり労力が軽減される反面、除塩、土壌消毒ができないため病害虫発生リスクが高まるという課題が残されています。現在研究を進めている早期に花芽未分化苗を定植して本ぽで増殖する方法（本ぽ増殖法）は、定植後点滴チューブによる自動かん水を行うことから、炭疽病発生低減効果が期待されるとともに、育苗労力の軽減も期待されます。ここでは、これまでの研究成果について紹介いたします。

二 増殖株数

本ぽで増殖する株数が多いほど必要な育苗株数は少なくなるため、「きらび香」において、本ぽ増殖法による増殖株数の違いが頂花房開花日及ぼす影響について、増殖なしの未分化定植と慣行の分化後定植と比較検討しました。

7月上旬にポット受けし、7月下旬にランナーを切り離し、8月6日に通常8株定植している発泡スチロールプランターに、増殖なしの未分化定植区は8株、1株増殖区は4株、3株増殖区は2株、7株増殖区は1株定植しました（図1）。定植後、発生したランナーを定植株当たりそれぞれ1株、3株、7株増殖し、プランター当たり8株としました。定植後から花芽分化確認まで、養液ECは原水+0.1dS/m（原水は0.3dS/mの井水を使用）としました。また、定植後から花芽分化を確認するまで遮光を行いました。ランナーは一次子株、二次子株など関係なく、展開15葉程度で順次受けました。増殖中は定植株の下葉をかく程度で管理し、

増殖終了後は花芽分化確認まで定植株も増殖株も乱形果発生を軽減させるために2葉で管理しました。増殖終了後も切り離しは行わず、10月下旬にそのままマルチをして4月下旬まで栽培しました。花芽分化確認後、養液ECは0.6〜0.8dS/mの当所慣行管理としました。

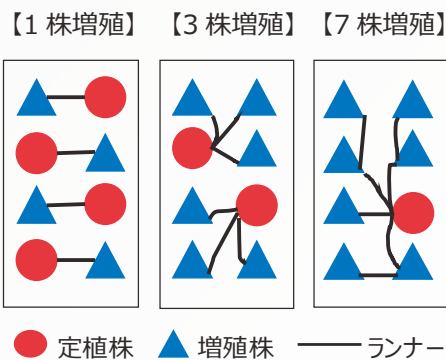


図1 定植・増殖方法

増殖が終了するまでの期間は、1株増殖区は1か月程度、3株増殖区は1か月半程度、7株増殖区は2か月以上でした。8月上旬に定植することによって、増殖なしの未分化定植区は、慣行の普通ポット育苗の分

化後定植と比べ、頂花房第1花の開花日は3日遅れました（図2）。1株増殖区では、頂花房第1花の開花日は定植株と増殖株でほとんど同じで、増殖なしの未分化定植区と比べてもほぼ同じでした。3株増殖区と7株増殖区の頂花房第1花の開花日は定植株と増殖株の差が大きく、増殖株数が増えるほど定植株の開花日が早くなり、増殖株の開花日が遅くなりました。特に、7株増殖区の定植株は慣行と同等かそれ以上の早さで開花しました。このことから、本試験では切り離しを行わず定植株と増殖株がつながった状態で栽培していたため、増殖株数の多い7株増殖区では定植株に負担がかかり、定植株の栄養状態が低下し開花が早まったのではないかと考えられました。しかし、増殖株数が多いほど増殖に必要な期間が長くなったため、増殖株の開花は遅れ、生育や開花のばらつきは大きくなりました。1株増殖区は10月中旬頃に定植株と増殖株の生育が同程度となりましたが、7株増殖区は11月上旬頃に同程度となりました。年内収量や4月末まで

の収量は、増殖株数の違いによらず増殖なしの未分化定植区と同程度であり、増殖株数の違いによる収量への影響はみられませんでした(図3)。また、増殖株数の違いによらず定植株の方が増殖株より株当たりの収量が多く、増殖なしの未分化定

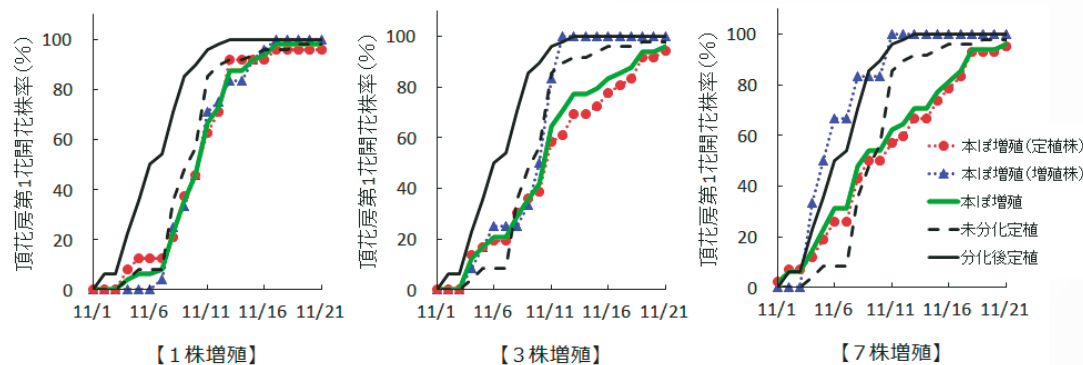


図2 増殖株数の違いが頂花房開花株率に及ぼす影響 (2020.山口)

8月上旬定植、中旬定植、下旬定植と定植時期の違いが頂果房開花日等に及ぼす影響について検討しました。1株増殖では定植時期が遅くなるほど生育の揃いが遅れ、増殖株の開花が遅くなりました。8月上旬定

三定植時期(増殖時期)

植区や慣行の分化後定植区よりもやや多い傾向がみられました。

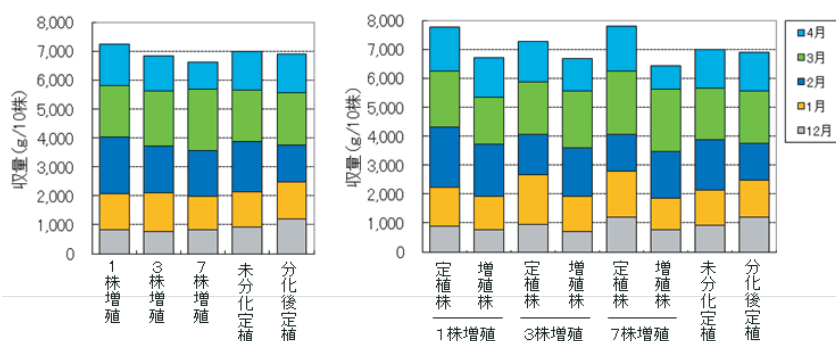


図3 増殖株数の違いが収量に及ぼす影響 (2020.山口)

植は、定植株と増殖株で開花のばらつきが小さく、慣行の花芽分化後定植とほぼ同時期に開花しました。中旬定植と下旬定植もほぼ同時期に開花し、定植株の開花は増殖株より早まりました。3株増殖でも定植時期が遅くなるほど生育の揃いが遅れ、定植時期が早いほど定植株、増殖株ともに開花日は早く、定植時期が遅いほど開花日も遅くなりました。収量に差はみられませんでした。

四ランナー切り離しの有無

8月上旬に定植、3株増殖し、9月下旬にランナーを切り離した場合、定植株と増殖株の生育に差はみられず、切り離さない場合と比べても生育に差はみられませんでした。定植株の開花は切り離さない場合と比べ遅くなりましたが、増殖株の開花は変わらず、定植株と増殖株の開花のばらつきは小さくなりました。収量に差はみられませんでした。

五炭疽病罹病株の定植

炭疽病菌接種株を定植し、ランナーを伸ばしたところ、先端部分が無症状であっても炭疽病に感染している事例がみられました。本ば増殖を実施する場合も、これまでと同様に健全な定植株の育成が重要です。

六現地でのR3年産の様子

昨年産で本ば増殖に取り組まれた6人の生産者に様子を伺いました。無遮光ではランナーが焼け、増殖に苦労されたこと、定植前の除塩ができなかったことから原水のみを給液を10日間行い、その影響からか心止まり株が約2割発生したこと、増殖中のランナーの伸びが悪く、増殖終了が遅れたこと、などの事例がみられたことから、①栽培前に培地を除塩する、②早めに定植し早めに増殖を終わる、③花芽分化前に肥料を切らせすぎない、などの点に注意する必要があります。

七おわりに

前述の6人の生産者は今年産でも継続して栽培されており、他にも取り組む方が増えていると聞いています。今後普及する見込みの高い技術であると思われるので、研究所においても栽培技術の確立に向け、現地で協力して引き続き研究を進めてまいります。

連絡先

磐田市富丘六七八一—
静岡県農林技術研究所
野菜生産技術科
agriyasai@pretshizuoka.lg.jp

建設部からのお知らせ

担当 建設部 054-284-9523

富士伊豆農業協同組合

なんすん地区 新店舗完成

すその富岡支店・すその営農経済センター新築工事 竣工式

12月21日、J A 富士伊豆は、すその富岡支店・すその営農経済センター新築工事の竣工式を行いました。

神事は、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を行い、鈴木正三代表理事組合長をはじめ、最小限の出席者により厳粛に執り行われました。

本工事は、すその富岡支店の敷地内に建替えを行い、1月23日に新店舗がオープンしました。

旧支店は合併前の南駿農協時代より裾野地域に親しまれてきましたが、施設の老朽化などの問題により、同敷地内に建替えをすることになりました。新しい施設は、金融店舗と営農経済センターの機能を1棟に集約した施設となっております。

新店舗オープン後は、旧支店の解体工事を実施しています。今後は引き続き倉庫棟、事務所棟の建替えを順次実施し、敷地内全体の整備工事完成は令和6年3月の予定です。

設計監理は、静岡県経済連一級建築士事務所が行っています。



▲建物外観写真



▲鈴木組合長玉串奉奠



▲鈴木組合長挨拶

【 営農ナビ 】

文字が大きく見やすくなってリニューアルしました！

あぐりんく静岡 からの お知らせ

農産物安全分析センター

分析メニュー、申込書、分析フロー（手順）を掲載しています。分析の際はコチラから！

経済連肥薬通信

更新

経済連肥薬通信2月号

経済連コンサルタントによる技術情報

産地情報

トマト、いちご、レタスの産地から出荷状況をお知らせしています。

販売情報

東京、名古屋、大阪の青果・花卉の概況を掲載しています。

●イントラから利用できます。

～他にも、農畜産物別の情報なども充実～

担当：生産資材部 生産振興開発課（TEL 054-284-9729）

県内
JA限定

生産・事業推進に
役立つ情報が満載！！

「しずおかごはんが食べたい！」(テレビ静岡)

担当:食糧部 食糧課(TEL:054-284-9737)

静岡県産米流通連絡協議会(事務局:食糧部)は、テレビ番組「しずおかごはんが食べたい！」(テレビ静岡・全11回放送)に協賛し、県産米をPRしています。

令和4年度の第9回目(1月21日)の放送では、フォーリンラブ・バービーさんが、富士市・富士宮市から酒米「誉富士」を使ったお酒を紹介しました。バービーさんは富士宮市の富士錦酒造(株)を訪問し、お米洗いなどの仕込み作業を体験し、誉富士を使った新酒を試飲しました。

次回の「しずおかごはんが食べたい！」は、磐田市・袋井市からオーダリー・春日俊彰さんが「にこまる」を紹介します。



▲「誉富士」を紹介



▲バービーさんが富士錦酒造(株)を訪問

JAタウン しずおか「手しお屋」おすすめ商品のご紹介



静岡いちご特集!

静岡いちごの主力品種
「紅ほっぺ」「きらび香」販売中です!
贈答におすすめのホールパック、
ご家庭用におすすめの平詰め・
デラックスパックを取りそろえています。
詳細は商品ページをご覧ください。



紅ほっぺ



【商品紹介】

「あきひめ」と「さちのか」を交配させた静岡県生まれの品種。ほっぺが落ちるほど美味しいとして「紅ほっぺ」と命名されました。大粒な果実で香りが良く、果汁も多いことが特徴。適度な酸味・コクが楽しめます。

きらび香



【商品紹介】

輝き・香り・甘みが特徴的な静岡県生まれの新品種。キラキラした宝石のような輝きに品の良い甘みとフルーティーな香りから名づけられました。みずみずしくなめらかな口当たりが楽しめます。

2月28日(火)まで「バイ・シズオカ 送料無料キャンペーン」を実施中です!

※一部対象外の商品があります。また、予算枠上限に達し次第終了となります。詳しくは商品ページよりご確認ください。



しずおか手しお屋 🔍 検索

※販売価格や販売時期は変更する場合があります。

担当:営業部 流通開発課
(TEL:054-284-9728)

◀静岡いちご特集ページはこちら



ペットは
家族の一員
もしも
の時

ご自宅まで
お伺いします

ペットの 出張火葬サービス

愛する家族のために

ありがとうの感謝の気持ちを込めて 悔いの残らないよう
最後まで飼い主さんが心を込めて見送ってあげましょう。

ペット火葬料金表 (税込み)

区 分	種 別	一任個別火葬	立会個別火葬
極小動物	ハムスター、インコなど	12,000円	14,000円
2kg 未満	フェレット、モルモットなど	15,000円	17,000円
2kg～5kg未満	猫、うさぎ、マルチーズなど	18,000円	20,000円
5kg～10kg未満	ミニチュアダックス、トイプードルなど	21,000円	23,000円
10kg～15kg未満	柴犬、コーギーなど	24,000円	26,000円
15kg～20kg未満	シェルティ、紀州犬など	28,000円	30,000円
20kg～25kg未満	ブルドッグ、ダルメシアンなど	32,000円	34,000円
25kg～30kg未満	ゴールデンレトリバー、ハスキー、ボーダーコリーなど	36,000円	38,000円

※上記金額には骨壺が含まれます。その他棺等は別途料金になります。 ※上記金額は諸般の事情により変更になる場合がございます。
※一部地域については、別途交通費を頂戴致します。

一任個別火葬プラン

個別火葬＋ご返骨

ご自宅にお伺いし、個別火葬いたします。終了後はスタッフが
拾骨を執り行い、骨壺・骨袋に納めてお返しいたします。

火葬車でお伺い → 個別火葬 → 返 骨

立会個別火葬プラン

個別火葬＋ご拾骨＋ご返骨

ご自宅にお伺いし、個別火葬いたします。終了後はお集まりの
皆様でご拾骨して頂き、骨壺・骨袋に納めてお返しいたします。

火葬車でお伺い → 個別火葬 → 拾 骨 → 返 骨



ご自宅まで
お伺い
いたします



静岡県のJA葬祭

TEL 0537-36-5110

お問い合わせ先：
ペット葬のアスモ

24時間365日対応

担当：くらし支援部 生活葬祭課 葬祭係 (TEL：054-284-9898)

